

徳島県におけるコガタウミアメンボの漂着記録

山田量崇¹・濱 直大²

[Kazutaka Yamada¹ and Naohiro Hama² : New stranding record of *Halobates sericeus* Eschscholtz, 1822 from Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan]

はじめに

海面上で生活する昆虫として、ウミアメンボ属 *Halobates* のアメンボ類が知られている。日本産の本属はこれまでに、沿岸域に生息するウミアメンボ *Halobates japonicus* Esaki, 1924 とシロウミアメンボ *H. matsumurai* Esaki, 1924, 外洋域に生息するセンタウミアメンボ *H. germanus* White, 1883, ツヤウミアメンボ *H. micans* Eschscholtz, 1822, コガタウミアメンボ *H. sericeus* Eschscholtz, 1822 の合計 5 種が記録されている (林・宮本, 2005)。後者の外洋性アメンボ類 3 種は、太平洋や東シナ海などに生息するため普段目にすることは困難であるが、台風や季節風などによって海岸に打ち上げられた個体がしばしば確認されている。太平洋側ではセンタウミアメンボやコガタウミアメンボの漂着が多いとされ (宮本, 1961; 林・宮本, 2005), 小笠原諸島の父島では両種が砂浜に漂着した記録もある (友国・佐藤, 1978)。日本海側における記録はほとんど知られていなかったが、最近、山陰地方からセンタウミアメンボとツヤウミアメンボが記録され (端山, 2009; 林・松田, 2011), さらに福岡県の海岸からも両種の漂着が報告された (中島ら, 2011)。また、コガタウミアメンボにおいては、1999 年に大分県佐伯市の砂浜に打ち上げられた個体 (1♂) が確認されている (堤内, 2011)。外洋性アメンボ類の海洋上での行動や発生動態、分布などについては最近の研究で明らかになりつつあるが (e.g., Ikawa *et al.*, 2002, 2004), これまで日本産 3 種の漂着記録は断片的にすぎなかった。

2011 年 9 月に徳島県美波町にてコガタウミアメンボの漂着が確認された。外洋性のウミアメンボ類の漂着は、徳島県における初めての記録になると思われるためここに報告する。

結果および考察

[検視標本]

1♀ (Fig. 1A, B), 1 幼虫 (老齢), 徳島県美波町田井田井ノ浜, 2011 年 9 月 17 日, 濱 直大 採集。

2012 年 2 月 17 日受付, 2 月 28 日受理。

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町向寺山文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunkano-Mori Park, Tokushima, 770-8070 Japan.

² 〒779-2109 徳島県海部郡美波町田井 13-26. Tai 13-26, Minami-chô, Tokushima, 779-2109 Japan.

[1♀, 1 nymph, Tainohama, Tai, Minami-chô, Tokushima Pref., Shikoku, JAPAN, 17. September 2011, N. Hama leg.]

本種は、体長 3.2-3.5mm で(検視標本の♀は 3.5mm)、日本産同属の中では最も小さい。体は一様な灰黒色で、触角と脚は黒褐色から黒色を呈する。体の大きさや色彩など、一見してセンチウミアメンボに似るが、触角第 4 節は長く、第 2・3 節の和に等しいこと、♂の中脚転節と腿節に顕著な小棘を備えること(♀の中脚腿節腹面にも小棘列を備える)、脛節は腿節の半分以下であることなどにより区別できる。

本種は、2011 年 9 月 17 日午前 7 時過ぎ頃に濱によって発見された。当時は、9 月 13 日に日本の南で発生した台風 15 号が沖縄本島近海で停滞・迷走していた影響から、徳島県南部でも南から湿った空気が流入している状況であった。そのため、発見前日の 9 月 16 日から風雨が強く、荒れた天候となっていた。17 日の朝になっても、引き続き南寄りの強い風(最多風向・東南東)が吹き付けていたため、田井ノ浜には流木やゴミなどが大量に打ち上げられていた (Fig. 2A)。

漂着物の中には、ココヤシやゴバンノアシ、タシロマメ、モモタマナなど南方系の植物の実や種が見られ、さらにカツオノエボシやギンガクラゲなど海上を漂流しながら生活する刺胞動物類も見られた。今回見つかった♀個体は、エボシガイやコケムシが付着した軽石に止まっていた (Fig. 2B)。

外洋性ウミアメンボ類の漂着記録が少ない理由として、体が数ミリと極めて小さく発見されにくいことが挙げられる。広大な海岸に打ち上げられた漂着物の中から小さなウミアメンボ類を見つけるのは至難の業であるものの、砂浜のくぼみや水溜まり、他の漂着物の周辺か

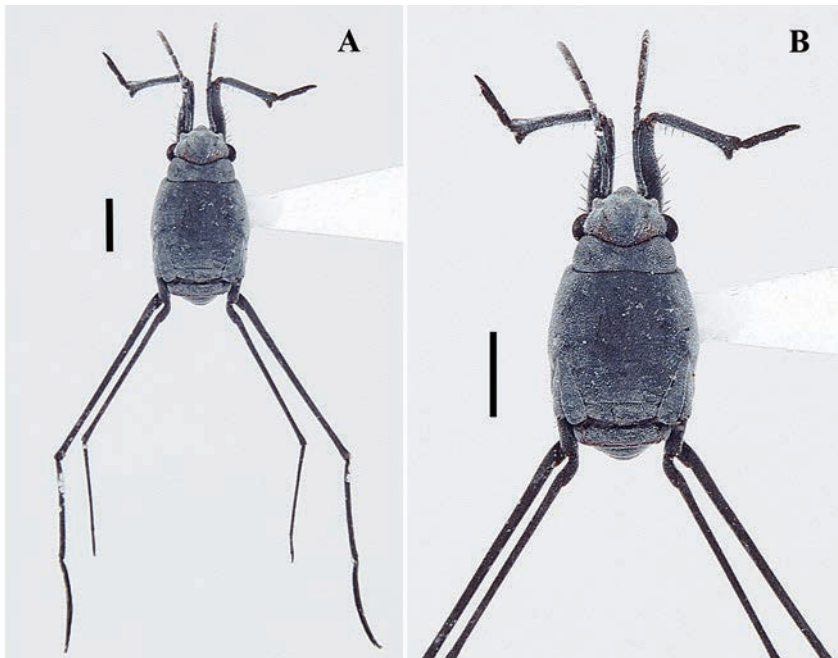


Fig. 1. コガタウミアメンボ *Halobates sericeus* Eschscholtz, 成虫, ♀. A, 全形(背面); B, 拡大(背面). スケールは 1.0 mm.



Fig. 2. A, コガタウミアメンボの採集地点（徳島県美波町田井ノ浜）；B, 打ち上げられた漂着物に付着しているコガタウミアメンボ（矢印）。

ら発見されることが多い（端山，2009）。また，過去の漂着例から判断する限り，外洋性ウミアメンボ類の漂着には少なくともある程度の気象条件が関連しており，それらが揃えば発見されやすいことが徐々に明らかになっている（端山，2009；林・松田，2011；中島ら，2011）。今回の発見時における気象条件も，過去の記録と同様の傾向があり，台風による強い風が影響しているものと考えられる。

濱は徳島県内の海岸で漂着物を定期的に調査しているが，これまで外洋性ウミアメンボを確認したことがなかった。体が小さく見つけにくいこともあるが，徳島県の海岸に打ち上げられる頻度は少ないのかもしれない。しかし，発見場所の徳島県美波町田井ノ浜は紀伊水道に面しており，徳島県内でも比較的漂着物が多い場所であることから，今回のような条件が整えば，今後も打ち上がる可能性は高いと考えられる。

引用文献

- 端山 武. 2009. 鳥根県出雲市の外圍海岸に漂着するセンタウミアメンボ. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 147-148.
- 林 成多・松田隆嗣. 2011. 山陰地方の海岸におけるセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの漂着. ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 205-211.
- 林 正美・宮本正一. 2005. 半翅目 Hemiptera. 川井禎次・谷田一三編, 日本産水生昆虫 科・属・種への検索, p. 291-378. 東海大学出版会, 東京.
- Ikawa, T., H. Okabe, S. Hoshizaki, T. Kamisako and L. Cheng. 2004. Distribution of the oceanic insects *Halobates* (Hemiptera : Gerridae) off the south coast of Japan. *Entomological Science*, 7 : 351-357.
- Ikawa, T., H. Okabe, S. Hoshizaki, Y. Suzuki, T. Fuchi and L. Cheng. 2002. Species composition and distribution of ocean skaters *Halobates* (Hemiptera : Gerridae) in the Western Pacific Ocean. *Entomological Science*, 5 : 1-6.
- 宮本正一. 1961. 日本昆虫分類図説 第1集第3部, 半翅目・アメンボ科. 39 p. 北隆館, 東京.
- 中島 淳・浅野海翔・川野 凜・松尾耕太郎・船迫笑子・阿波連憲子. 2011. 福岡県におけるセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (11) : 175-177.
- 友国雅章・佐藤正孝. 1978. 小笠原諸島(含硫黄諸島)の水棲および半水棲昆虫. 国立科学博物館専報, (11) : 107-121.
- 堤内雄二. 2011. 大分県初記録のコガタウミアメンボ. 二豊のむし, (49) : 114.